

## コラム「社会からみる肥満症」

### 1. 要旨

メタボリックシンドロームはアメリカ国内の成人の22%に影響を及ぼしている。症状として高血圧、脂質値の異常、高血糖を呈し、過体重が認められる。

1988～1994年に行われたアメリカ政府による健康調査のデータを研究者たちが分析したところ、メタボリックシンドロームの基準に該当する人の割合に人種差が認められた。メキシコ系アメリカ人女性27%、同男性21%、白人女性23%、同男性24%、黒人女性21%、同男性14%であった。「調査上、考慮に含まれなかった未知の環境因子はあるが、この割合の不均衡さは遺伝子によるものと思われる」とコロラド大学のステイブン・ヘイムズフィールド医師は語った。

人種の違いに起因する要素としてBMI、社会的経済的地位、運動量などが挙げられるが、それらはどれもメタボリックシンドロームに関連するとされるものである。

この調査の詳細は“Internal Medicine”に発表された。調査はスンキョンワン大学(ソウル)のヤンウー・パク医師を中心に行われ、スタンフォード大学から研究者たちが参加した。解析の結果は驚くべきものであったが、実際のところ、このデータはすでに8～14年前のものである。「状況はさらに悪化しているだろう」とコロラドヘルスサイエンスセンターのダニエル・ベセッセン医師は語った。

メタボリックシンドロームは肥満者の少なくとも半分、overweightの人では20%、正常体重の人では6%未満に認められるとされる。それらは肥満、糖尿病、心臓病の罹患を増長する傾向にあるが、ダイエットや運動、禁煙を実行することでリスクを軽減することが可能である。メタボリックシンドロームの人は次の項目のうち最低3つに該当する ウエスト周囲径が102cm(男性)、88cm(女性)以上、中性脂肪値が150mg/dL以上、HDLコレステロール値が40mg/dL(男性)、50mg/dL(女性)未満、収縮期血圧135mmHg、拡張期血圧80mmHg以上、血糖値が110mg/dL以上である。

### 人種差とメタボリックシンドローム

[CNNニュース February 24, 2003より]

### 2. コメント

メタボリックシンドロームとしてとらえられた病態はきわめて重視され

なければならないものとして認識されている。一人のひとに、いろいろな危険因子が起っていること、起こる可能性があること、そしてそれはそれぞれの危険因子が軽症であっても重なることによって危険度は増していくこと、肥満を軽減させることによって、それらが同時に軽減することなどは診断においても治療においても肥満の役割の大きさを示している。その背景は必ずしも解明されておらず、遺伝的背景が考慮されなければならない。しかしそれは起こりやすさの程度を規定するものであり、環境の大切さには変わりはない。

(編集部)